

はじめの一步

保育者になってからの2年間

私は、幼稚園の先生になり今年で二年目を迎えました。一年目は、年少組の担任をもたせていただくことになりました。

驚きと不安で迎えた入園式。初めて自分のクラスの子どもたちを見た時に改めて保育者になった喜びと緊張感、また、「私が担任になって良かったのだろうか」と不安を感じました。日々初めての事ばかりで、少しでも分からない事があると先輩先生の部屋に走って行っては、たくさん教えていただきました。また、子どもたちも初めての園生活で泣いてしまい、三クラスの中でも私のクラスが一番長く泣いていました。しかし、慣れていく中でいたずらをしてしまう子、ケンカばかりしてしまう子、私も同じような言葉しか出さず情けなくなったり、先輩の先生に助けをいただいたりとか一日一日を終えていました。

しかし二学期が始まりすぐのこと。体調を崩し、運動会を直前に控えていましたが三日間もお休みしてしまいました。子どもたちのことが気になり、毎日の様子を教えていただき、私もやっと復活することができました。

だけ練習したらおしまいだよ」と短い時間で集中して練習をする短期集中作戦など様々な方法で練習しました。

少しずつではありますが、子どもたちも自分たちから進んで「踊りたい!」とお話してくれるようになりました。迎えた発表会当日。私が以前から心配していたお子さんは、涙一つ見せずに踊ってくれました。その頼もしい姿を見て、私は涙を流しながら舞台横で一一緒に踊りました。途中まで私を見ながら踊っていた子どもたちも私

久しぶりに会う子どもたちは、少し照れながら「元気に

なったの?」「先生!来て良かった」と言ってくれました。その日の降園時、保護者の方から「先生が今日も来なかったら幼稚園辞める!」とお話していたことを聞ききました。かわいそうなことをしてしまったと反省すると共に、それまでの日々に子どもたちも幼稚園に楽しんで来てくれたのかなと少し安心しました。

運動会も無事に終わり、発表会の練習が始まりました。子どもたちは一生懸命取り組んでくれていましたが、段々と練習に集中できなくなってしまう子や大勢の人の前で踊ることが苦手な子が目立ってきてしまう様になっていました。保護者の方にもその様子をお話し、相談しながら練習していましたが、保護者の方にとっても初めての事で「本番でも泣いてしまうかもしれない」ととても心配されていました。大勢の人の前が苦手なお子さんでしたが、毎日頑張って練習している姿を見て、「きつと本番でも踊ることが出来るはず!」と思いました。そこで、「今日は先生が頑張るパワーをあげるよ」とパワー作戦や、練習を始める前に子どもたちを集め、「今日はこの部分



谷崎昌代

光輪幼稚園 教諭(東京教区)

が泣いてしまったので、ただ前を見てしっかりと踊ってくれました。また、後で聞いたお話ですが、舞台裏で待っていた子どもたちも他のグループの踊りを踊っているぐらい余裕のある様子で楽しんでいました。毎日練習ばかりでしたが、その中でも楽しさを見つけてくれた子どもたちに頭が下がる思いでした。また、「最後まで頑張った良かった!」と感じました。出番を終えた子どもたちは、「先生、泣いてたでしょ!」とお話するぐらいとても落ち着いていました。しかし、この時に私は、本気で向かえば必ず見てくれると改めて感じました。そして二年目。昨年の子どもたちと一緒に学年が上がります。年中組の担任をもたせていただくことになりました。昨年とは違い、生活の色々な場面で自分たちから取り組む姿が見られ、行事においても昨年とは違う充実感があります。日々子どもたちに助けていただいている私ですが、最近では一人ひとりに強い意志が出てきています。それも成長している証拠だと嬉しい反面、難しい時期でもあると感じています。

また今年も発表会の時期が近づいてきています。また新たな課題もあると思いますが今までにない子どもたちの姿が見られるのが楽しみです。これからも楽しく過ごしていける様、一生懸命努めてまいりたいと思います。